

教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）		講義	非常勤講師 池野 正晴
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	11520204 12520204 13520204

1. 授業のねらい・概要

よい授業を形成している要因を理解し、授業づくりの基礎・基本を修得できるようにする。また、授業づくりにおける基本概念（教育内容、教材、教具、発問・指示・説明などの教授行為等）や学習モデル（アクティブ・ラーニング型の学習指導等）、教授理論、授業の原理・技術、授業の計画・実施・評価、学習形態、情報通信技術（ICT）、情報活用能力等について理解できるようにする。

2. 授業の進め方

A「授業づくりネタクイズ」（時々）、B「教育方法学の基本概念」、C「実際の授業づくり」（B、Cについては並行して扱う）、D「情報通信技術を活用した教育」の4本柱で構成。パワーポイントやOHC、DVDなどを活用する。

適宜、「授業づくりネタクイズ」などを通して、授業づくりについて具体的に考える場を設定し、個人ワークやペアワークを併用し、考えをまとめ、発表できるようにする。（教師の資質としての思考力、判断力、表現力も鍛える。）

3. 授業計画

1. 教育方法論・そのプロローグー学生・生徒に培うべき資質・能力と「教育方法論」○×クイズー 教育の哲学的基礎ー人間モデルの教育ー	10. 情報活用能力の育成Ⅱー教育におけるインターネット利用ー
2. 学習指導法と学習モデルⅠー系統学習モデルと経験学習モデル・問題解決学習ー	11. 情報通信技術（ICT）を活用した学習場面ー斉学習、個別学習、協働学習ー
3. 学習指導法と学習モデルⅡー発見学習モデルと一般的な教授・学習モデルー	12. オンライン・リモート（遠隔）による学習指導ー合同授業型、教師支援型、教科・科目充実型ー
4. 教育内容と教材Ⅰー教材とは、教育内容とはー	13. デジタル教科書・教材・黒板や反転学習とエドテック
5. 教育内容と教材Ⅱー区別する論理・意義と教材観・子ども観の転換ー	14. 情報モラル教育ー情報通信技術やインターネットの光と影ー
6. 教材と教授行為Ⅰー授業Aと授業Bとで考えるー	15. 教育方法論・そのエピローグー講義のまとめとふり返りー
7. 教材と教授行為Ⅱー教授行為と発問、指示、説明等ー	
8. GIGAスクール構想と情報通信技術（ICT）	
9. 情報活用能力の育成Ⅰー教育におけるコンピュータ利用ー	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- シラバスの授業計画の範囲について、最低1時間の予習及び授業内容について最低1時間以上の復習を行うものとする。（事前・事後学習）
- 配付プリントに目を通し、穴埋め箇所をテキストや検索資料をもとに考えておく。
- 小・中学校や高校において、これまで児童・生徒として受けてきた授業を思い出し、それらの授業とのつながりを具体的な例として、「教育方法論」の視点から分析・考察し、ノートにまとめておく。（授業最終回に、課題分析レポートとして提出）

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施（ミニテスト）の際、レポートに対するコメントと試験における解答のポイントおよび出題意図の説明を試験終了直後に実施する。

6. 授業における学修の到達目標

1. よりよい教育を行うための哲学的基礎を理解し、よい授業を形成するための重要な要件を4項目にまとめて述べるができる。
2. 学習モデルの弁証法的発展について理解し、それとつなげて授業づくりの基本的な段階の意味・意義について述べるができる。
3. 情報通信技術（ICT）を活用する意義や理論、情報活用能力を育成する意義およびその育成方法について具体的に述べるができる。
4. 学習指導におけるコンピュータ利用及び学習指導におけるインターネット利用の形態について分類・整理して述べるができる。
5. 遠隔教育の類型や反転授業（学習）の形態やメリットを具体的に説明することができる。
6. 情報モラル教育（情報通信技術やインターネットの光と影）を具体的に説明することができる。
7. 被教育者として受けてきた学習体験（授業）のなかから、印象に残る特徴的な授業について、講義で学習した分析の視点を駆使して授業を考察するレポートを記述することができる。（分析項目として8語句以上の使用）

7. 成績評価の方法・基準

ミニテスト 40% （筆記試験／受験資格は3分の2以上の出席をした者）

課題レポート 30% （被教育者としての体験授業の分析レポートー学習した分析用語等を駆使してー）

※課題のテーマ、分量、作成の項目例等については、「授業通信」で連絡する。また、レポート用の指定の用紙を事前に配付する。

授業への参画度 30% （授業への参加・参画度、貢献度、教師としての資質、発言内容、コメント記入等）

8. テキスト・参考文献

[テキスト]

(1) 池野正晴 (2023) 『新しい時代の授業づくり』(改訂第7版), 東洋館出版社

(2) 授業前配付資料 (PDF等)

[参考文献]

(1) 文科省 (2020) 『教育の情報化に関する手引 (追補版)』, 文科省HP

(2) 文科省・内田洋行 (2023) 『学習者用デジタル教科書の活用による指導力向上ガイドブック』

(3) 文科省 (2023) 『初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン』

(4) 稲垣忠・佐藤和紀編著 (2021) 『ICT活用の理論と実践』, 北大路書房

(5) 佐藤・伊藤・和田編著 (2023) 『ICTを活用する新しい時代の教育方法』, ミネルヴァ書房

(6) 池野正晴 (2023) 『自ら考えみんなで創り上げる算数学習ー新しい時代の授業づくりと授業研究ー』(改訂第3版), 東洋館出版社

9. 受講上の留意事項

- 対話形式を重視し、「その場に居て実例等について実際に考え、話し合いに参加する」ことを大事にしたい。「教師になる」という当事者意識をもって参加・参画する。
- ペアワークやグループ討論では、積極的に参加し、自分の意見を表現し、相手の意見も尊重しながら聴くようにする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、教育機関における教員としての実務経験（小学校教員、高等学校校長）を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリ」欄の記載のとおり。